

KOCHI 2018 ROTARY 2019 CLUB SINCE 1937



週報



Weekly report 第3382回
第3383回

2019年2月19日

2019年2月26日

2019年3月5日発行

● 会長挨拶



皆さん、こんにちは。このところ、イギリスからホンダが撤退するかもしれないというニュースが何度も流れています。EUから脱退しようとしているイギリスでは、国内の議論が2分されています。それを見ていると、ウィンストン・チャーチルが首相のときに言った言葉を思い出します。「民主主義は最悪のシステムだ。しかし、これ以上良いものがない」

民主主義は確かにいいのですが、成功させるためには、小学校から学校教育をちゃんとしないと、うまくいかない。日本が1番、民主主義がうまくいっている国、【多分、世界で社会主義が1番成功した国】なんて言われていますが、やはりそこは、日本人が元々利他の心を持っているということと関係が深いんじゃないかなと思ったりします。利他の心と全体最適の視点を持つことは大事ななということを、改めて思っているところです。

私の会社ができるときに作ったパンフレットには、「社員を経営に参画させる会社をつくりたい。多数決はしない。みんなが考えるのが原則。ディスカッションでは安易な多数決を取らず、反対意見をとことん聞き、全員が納得するまで議論が続く」と書いています。意見が2分されたとき、少数派の人が頑張って一生懸命自分の意見を述べている。それでやっていると、最後の最後に必ず全員一致で物事が決まるようにはなってきます。最初はものすごく時間がかかりますが、やっているうちに結構短い時間で全員の意見がまとまって、これでいこうとなります。

ちょっと自慢話になりましたが、民主的な会社で社員に経営に参画させようと考えながらやっています。

本日の卓話は、黒笹慈幾さんです。「釣りばか日誌」の浜ちゃんのモデルとされていますが、映画の主人公のようなC調な人ではなく、とても真面目な方です。高知で釣り三昧の余生を送ろうと移住してこられたのですが、いろんな団体に引っ張りだこで、ボランティア活動を延々とされています。よろしくお祈りします。



■本日のプログラム [3月5日]

ゲストスピーチ

高知県働き方改革推進支援センター
田村 豊氏
「働き方改革関連法について」

会 長	横 田 英 毅
副 会 長	大 久 保 千 堯
幹 事	中 島 和 代
副 幹 事	中 澤 陽 一
会報責任者	武 樋 泰 臣

- **ロータリーソング** 「我らの生業」
- **今週のピアノ曲** 「朝の鐘」 ピアノ演奏：宮地公美子会員
- **来訪ロータリアン**
中村RC 東 邦彦氏



● **ゲストスピーチ**

人生の節目に歩き遍路を

高知大学客員教授 黒笹 慈幾 氏



高知の方は、遍路は自分がするものではなくて、おせったいするものだと思っっているんですね。でも、お遍路は、ものすごく奥深い、宗教的な部分を除いても面白い取り組みで、歩けることそのものが、何て自分は恵まれているんだろうと、ひしひしと感じるととても素晴らしい体験です。

私は、辰濃和男さんという、朝日新聞の天声人語を書かれていた方が、在職中と退職後、四国遍路を歩いた本を読んで、当時、編集長をしていたBE-PALという雑誌の正月号で、歩き遍路特集を思いつきました。アウトドア雑誌ですから、1,400キロを超えるルートが決まっている超大なトレイルを歩くという、ある意味、とてもアウトドアっぽい切り口をしていけば、新しいネタになるのではないかと考えました。ものすごく売れました。そのとき、お遍路って面白いなというのが、僕の頭の中にインプットされました。それはそれで忘れていましたが、高知に移住することになり、そういえば、昔やり残したことがあったよなみたいな感じで思いだしたのが遍路です。それでも、何かきっかけが必要で、新聞の連載という宿題を背負って歩けば、途中で挫折しないだろうと。また、この歩き遍路で、高知の交流人口、観光人口をもっと増やそう。お遍路をもっと存分に利用しよう。お遍路のツーリズム化、ここにいろいろなビジネスチャンスがあります。今インバウンドが言われていますが、これはインバウンドも解決します。実際、私が歩いて以降、どんどん外国人のお遍路さんが増えています。新聞もいろいろフォローしていただいて、毎日、歩きながら次の日の原稿を書く。締切に間に合わないで駅で原稿を書いて、インターネットで送る。私自身は「釣りときどきお遍路」というブログを毎日上げていました。新しいアウトドアのスタイルのお遍路で、最先端の高機能素材を使った道具で歩きました。

竹林寺の50年に1度のご開帳の春、文殊菩薩を見ながら

スタートしました。このとき、海老塚和秀さんに「四国88カ所のお寺には宝物はありません。道々に眠っている宝物が何であるかを探しながら歩くのがお遍路なんです」と言われました。

126日間、1,580キロを歩いて、全然苦しくなかったのはなぜか。まず新聞記者と一緒に、2人で歩いたことです。1人ではなく2人で歩く楽しさ。本来は同行二人、背中に御大師を背負って歩くという意味ですが、本当の同行二人でもいいのではないか。それから先を急ぎませんでした。普通は1日30~40キロ歩くメニューですので、お遍路宿もその間隔がありますが、私たちは原稿を書く時間も考慮して、1日20キロ以上歩くのはやめようと決めたら、これは結構楽でした。朝早く起きて規則正しい生活、夜は、原稿を書いたら自由時間ですので、ほとんど毎日お酒を飲みました。町にいるときは、夜遍路と称して、居酒屋に繰り出します。

2年後、竹林寺に戻ってまいりました。高知からの出発でしたので、37番をスタートして88番から1番へ、そして36番まで戻ってきたのが、我々のルートです。その後、歩いて高野山まで行きました。これで結願です。このとき、四国遍路開祖1,200年の節目だったので、新聞ほかたくさんメディアに取り上げていただきました。

お遍路はやはり歩かないと駄目です。歩かないと気づかないものに気づくのがお遍路の大切な部分です。例えば、そよと吹く風を感じます。真夏は電信柱の陰ですらありがたい。コンクリートと土の違いが身体を通じてよく分かります。土の道を歩くと身体が喜びます。わずかな気温の変化、四季を通じて季節感そのものの野鳥の声が聞こえます。ホトギスの第一声を聞けば、ああ夏が来たな。冬のウグイスの地啼きを聞くと、もうちょっとで春が来るなど。

毎日がサプライズの連続です。明日のことは歩いてみないと分からない。皆さんは、1年先、あるいは2年先までスケジュールが決まっています、なおかつ、そこでどんなシーンが待っているか予想できる人生を送っていませんか。でも、お遍路は明日何が起こるか分かりません。そういう日々を一度体験すると、もともと人間というのは、こういう世界に生きていたんだなということがよく分かります。ですから、御大師様はすごい。超優秀なツアーコンダクターだと思います。次か



ら次に驚く事を用意して待ち構えています。歩いていると、ひょっとして今の人、御大師様だったかもしれないとか、前をゆっくり歩くインガメを御大師様かもしれないと思えてくるんです。森羅万象ありとあらゆるところに、御大師様がいらっしゃる感覚になります。

全てに感謝する気持ちになります。車で回っているある老夫婦に、「自分たちは本当は歩きたいけど、身体が許さないのではやむを得ず車で行っている。歩いていけるあなたたちは何で贅沢なんですか」と言われて、歩けることそのものが贅沢なことなんだと気づきました。歩かないと出会えない人がいます。歩かないと出会えない風景があります。何十万円もかけないでも、室戸の海を背景に寝っ転がる。これこそ、ファーストクラスの旅です。

そして、僕が気づいたことで一番大きいのは、龍馬の時代の人の距離感覚です。今の時代、20キロだと車で30分。けれど、歩くと5時間、ほぼ1日コースです。坂本龍馬の時代、彼らが激しく動いて、いろんなところに顔を出して、最後に山を越えて脱藩したときの距離感と時間の間隔は、まさにこ

れなんです。ですから、歩くというのは易々と彼らの時代にタイムスリップができて、いろんなものが共有できるという深い感覚があります。身体全体が震えてくるような感動を味わいました。

海老塚さんのおっしゃったように、これが俺の宝物なのかというものに、歩いている内に必ず出会います。人それぞれ違うものかもしれませんが、人生の宝物に、どこかで出会えます。人間にとって、「歩く」という行為がどういう意味があるのか、深く考えさせられる貴重な体験でした。ぜひ、皆さんにも体験していただきたいと思います。



● 幹事報告

- ・国際奉仕委員会から、書き損じはがき回収について、1万4753円を寄付ができたとの報告がありました。
- ・本日例会終了後、第4回クラブ協議会を行います。
- ・来週は、創立夜間例会です。

◇ 出席率 ◇					
	総数	出席	欠席	メイクアップ	出席率
2月19日	(-5)92	61	19	7	78.16
2月5日	(-7)92	55	9	21	89.41

2月26日 ロータリー創立夜間例会

● ロータリーソング「我らの生業」

● 会長挨拶

皆さん、こんばんは。今日は、国際ロータリークラブの創立夜間例会です。国際ロータリーは1905年2月23日に創立。日本はそれから15年遅れ、1920年に発足しています。高知RCは、日本のクラブができてから17年後、1937年に発足しました。初代会長は入交太蔵さん。入交章二さんのおじいさんで、私も若いころ、二、三度お会いしたことがあります。大変温厚で気さくな、人柄は章二さんにそっくりという印象でした。太蔵さんは3年連続で会長をされて、1年間をおいて、次の年、5年目にもう一度会長を務めています。当時の会員数24名。現在は、4倍になっています。この間、高知RCはどのように変化したか、少し考えてみましたが、女性会員の入会ぐらいで、世の中がものすごく変化している割には、あまり変わっていないように思います。それはいいことでもあり、



もしかしたら、ちょっと反省しないといけないところかもしれません。

その時代は高知クラブしかありませんから、メイクアップに高松まで行ったというような話を、私が入会した当時、先輩に聞かされました。今は出席率をキープすることが易しい時代になったと同時に、メンバーが忙しい。私の祖父も父も、70を過ぎたら何も仕事をしていなかったと思います。私は75歳で、未だにフルに忙しい。世の中の変化はこういうところにもあると感じます。

現在はロータリークラブだけでなく、商工会議所、経営者協会、土佐経済同友会、ライオンズクラブ、青年会議所、国際ソロプチミスト、各業界の会合等々、たくさんあります。高知クラブができた当時、情報と言えば新聞とNHKのラジオぐらいでした。時代がものすごく変化していることを改めて感じる次第です。

● **お客様** (敬称略)

- ・ご家族 中澤佐紀子
- ・燦燦奨学生
 - 河崎桃花 (高知県立大学社会福祉学部社会福祉学科3回生)
 - 矢野梨菜 (高知県立大学看護学部看護学科3回生)
 - 山本航太郎 (高知工科大学環境理工学群1回生)
 - 清水楓恋 (高知大学人文社会科学部1回生)
- ・長期交換学生 エイプリル・デラ・クルス

● **幹事報告**

- ・3月のロータリーレートは1ドル110円です。

● **お知らせ**

川崎敦子会員 会社 FAX 番号変更 088-822-9360





● 会員スピーチ

初期ロータリーの歴史について

野村 茂 会員

1905年2月23日(木)、その日のシカゴの夜はとても寒かったそうです。イリノイ街にあるマダム・ガリのレストランで、2人の男性が食事をしていました。弁護士のポール・ハリスと石炭商のシルベスター・シールです。そこで、ポール・ハリスは長年抱いてきた構想をシールに話します。「今までの社交団体とは全く違った実業家のクラブをつくりたい。そこで会員同士がお互いのビジネスを伸ばせたらいい」。シールはこの構想に賛同し、2人は鉱山技師のガスターバス・ローアと洋服商のハイラム・ショーレーの待つ事務所に向かいます。

4人の会合の折、ハリスは「何でも心から相談できる、語り合える、互いに助け合う職業人のクラブをつくりたい。そして、実業人だけではなく、あらゆる職業の人を集めて、一業種一会員制として親睦を深める会をつくりたい」と熱っぽく語ります。

第2回の会合は3月9日、新たに3名の会員が入会。このとき、職場持ち回りの原則を決めています。第3回の会合の参加人員9名。ここで、ハリスは役員任命、イニシエーションスピーチ、会員資格に関する原則、クラブ名称の決定を提案し、初代会長にシルベスター・シール、幹事にハイラム・ショーレーを選任。クラブの名称をロータリークラブと決定しました。

その後、1年余は親睦とお互いの助け合いの仲良しクラブでした。実際、1906年1月に制定された定款第2条の目的は、「会員の事業上の利益の促進」と、「社交クラブに付随する良き親睦とその他の特に必要と思われる事項の推進」の二つだけです。また、当時のクラブのパンフレットには、「会員相互の原価取引が原則である」と明記されています。しかし、こうした行為に対する一般からの非難が高まります。1906年4月、入会を勧められたドナルド・カーターは、クラブの互惠主義を聞いて、「自分たちだけの利益にこだわって、社会に何もしない団体に将来性も魅力もない」と言って入会を断ります。

物質的互惠と親睦のみに終始することに限界を感じ、次の段階へのステップアップを考えていたポール・ハリスは、この事件を絶交のチャンスと捉え、ロータリーの在り方を転換することを決断。ドナルド・カーターにも再考を促し、入会を了承してもらいます。ここで、定款第2条、第3項に「シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める」という条文が追加され、奉仕の考え方が生まれるわけです。

1908年、ロータリー運動に重要な役割を果たした2人が入会します。アーサー・フレデリック・シェルドンとチェスレー・ペリーです。

チェスレー・ペリーは国際ロータリーの組織をつくった



人で、事務総長を32年にわたって務めています。そして、アーサー・フレデリック・シェルドンは、ロータリーに奉仕の概念を提唱した人で、彼の「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」という言葉は、皆さんご存知のとおりです。これは、彼の経営哲学である、顧客の満足度を最優先した事業経営を行うべきで、職業を通じて社会貢献するという意図を持って事業を営むべきだとの考えに由来するものです。シェルドンの奉仕理念を正しく知ることが、正しく職業奉仕を理解することにつながります。職業奉仕は実利的なものであり、精神的な運動でも倫理的な運動でもありません。

社会的な奉仕がロータリー運動の中で市民権を得るにしたいが、ロータリアンの中に、奉仕の心を形成することがロータリー運動の本質だとする理論派と、奉仕活動の実践こそがロータリアンの使命だとする実践派の間に、熾烈な論争が起こります。そこでたどりついたのが、1923年セントルイスの国際大会において採択された決議23-34号です。

この決議は総論と各論からなる6項目で成り立っており、広い範囲でロータリーの原理原則を定めています。個人奉仕か団体奉仕かという異なる二つの考え方を、ロータリーの寛容の精神の下で調和するためにできたもので、第1項には「ロータリーは、基本的には一つの人生哲学であり、利己的な欲求と義務及びこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に、常に存在する矛盾を和らげようとするものである。これは超我の奉仕の哲学と、最もよく奉仕する者、最も多く報いられるという実践理論の原則に基づくものである」と書かれています。その後、1927年、国際ロータリー理事会によって、クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕の4大奉仕の概念を開発。その5年後の1932年、「四つのテスト」ができます。

初期のロータリー(1905年から1927年)は、ロータリー創立以来、諸々の原理開発を終え、原理探求から実践へと入っていくまでの期間であります。優れたロータリアンがその時代の時々で、親睦か奉仕か、また職業奉仕か社会奉仕かという二つの奉仕の間で、「ロータリーはいかにあるべきか」を議論してきたことがお分かりいただけると思います。

100人いれば100通りのロータリー観があり、明確な答えはないと思います。ポール・ハリスは、自身の理論の中で「ロータリーは、親睦と奉仕との調和の中に宿る」と説いています。これがまさしく、高知RCの持つ礼儀正しき、居心地の良き所以である「寛容」につながるものと思っています。

会員の皆さまには、それぞれの立場で無理のない範囲でロータリーにご支援、ご協力をお願いし、そして、こちらから先も、ロータリーライフを存分に楽しんでいただきたいと思います。

(「ロータリーの歴史探訪」田中 毅著より引用)

◇ 例 会 変 更 ◇

高知北RC 3月11日 ローターリー休日(三)	高知中央RC 3月14日 職場例会(城)
高知RC 3月19日 ローターリー休日(三)	高知ロイヤルRC 3月19日 花見例会に振替(旭)
高知北RC 3月25日→24日 家族合同野外例会(三)	高知ロイヤルRC 3月26日 お泊り例会に振替(旭)
高知東RC 3月27日 花見夜間例会(阪)	高知南RC 3月28日 花見例会(阪)
高知西RC 3月29日 ローターリー休日(三)	

※例会場ホテル：(三)…三翠園(城)…城西館(阪)…ザクラウンパレス新阪急高知(旭)…ホテル日航高知旭ロイヤル

ニコニコ箱 [2月19日]

- 東 邦彦 (中村RC) 野村ガバナー補佐、ご就任おめでとうございます。任期はIMからIMと言われております。頑張ってください。
- 千頭 邦夫 黒笹さん、貴重なお話をありがとうございました。ゴルフクラブを杖にしたお大師様のそばに立つ写真なら、せめて黒チャンアシモ君は、釣り竿を杖にした方が良かったのではとも思って拝見しました。
- 笠井 勇治 龍馬マラソン、応援ありがとうございました。5時間59分で完走しました。足が痛くて便座に座れません。
- 関 雅文 龍馬マラソンに参加し、無事完走してまいりました。応援してくださいました皆さま、ありがとうございました。
- 君波 真 今年も龍馬マラソンにチャレンジしました。去年はケガで準備不足からハーフで終了しましたが、今年は正味6時間13分19秒で歩ききりました。応援いただきました皆さまありがとうございました。全く練習しなくても完走できることを証明できました。来年は出ません。
- 眞田 直也 お陰様で龍馬マラソン完走できました。天気も良く気持ちよい1日でした。
- 川崎 敦子 先週三菱電機本社ビルシステム新事業企画部により、弊社不二電気工芸(株)がZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング)の取材撮影を受けました。編集ができ次第、三菱電機公式ホームページにパートナーCMとしてアップされます。ぜひご覧いただきたくニコニコします。4月上旬には見れる予定です。
- 森 由枝 長い間、欠席いたしました。ニコニコいたします。
- 西山 彰一 2月15日、澁谷会員の会社の創立60周年、幾多の困難を乗り越えての歴史。大変感動いたしました。澁谷会員、ご家族、社員、関係者の皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。

🌹 3月のお祝い

- | | | | | |
|----------|-------|-------|--------|-------|
| (会員誕生日) | 松岡 宣明 | 野村 茂 | 千頭 邦夫 | 宮地 貴嗣 |
| | 眞田 直也 | 川崎 敦子 | 武田 一宏 | 各会員 |
| (配偶者誕生日) | 武田 佳子 | 山神 ゆか | 浜田理都子 | |
| | 安光紀保子 | 尾崎真由美 | 各会員配偶者 | |
| (結婚記念日) | 宮地 貴嗣 | 西山 俊彦 | 尾崎 典之 | |
| | 久場 幸信 | 津野真千子 | 久松 朋水 | 各会員 |

◇ 出 席 率 ◇					
	総数	出席	欠席	メークアップ	出席率
2月26日	(-9)92	56	12	15	85.54
2月12日	(-5)92	61	5	21	94.25

● 累計額 [2月26日現在]

ニコニコ箱	737,500円	ロータリー <small>さんさん</small> 燦燦基金	294,258円	ポリオ募金	329,000円
-------	----------	--------------------------------	----------	-------	----------

■ 次週のプログラム [3月12日]

ゲストスピーチ
 山内興業(株) 代表取締役社長
 山内 豊功 氏
 「幕末・維新期の土佐藩」

創 立 昭和12年10月
 例 会 日 火曜日 12:30~13:30
 例 会 場 三翠園ホテル TEL(822)0131
 事 務 局 高知市本町3丁目2-15 高知新聞放送会館1階
 TEL(824)8660 FAX(824)2529
 E-mail shinairc@joy.ocn.ne.jp
 HPアドレス <http://www.221.ne.jp/kochirc/>